

■藤原頼長(悪左府)
ふじわらのよりなが
関白免職事件1120＝

公卿。“日本一の大学生”の才能で、伝統社会に反逆、く保元の乱を余儀なくされ、敗死した。
忠実の家司藤原盛実の女を母に、く関白藤原忠実の次男に生まれる。いわば妾腹の子である。

・・・・・・・・1125＝ 5歳：く異母兄で摂政の忠通の養子となり、

鳥羽院政始・1129＝ 9歳：
・・・・・・・・1130＝10歳：く昇殿を許されて朝廷に出仕して以来、
く官位の昇進をかさね、

・・・・・・・・1134＝14歳：乳母が死去して悲しむ。

・・・・・・・・1136＝16歳：*早くも内大臣に昇って世人を驚かせた。また異常な熱意を学問にそそぎ始め、「蒙求」皮切りに、
・・・・・・・・1137＝17歳：「論語」「史記」「燕丹子」、
・・・・・・・・1138＝18歳：「漢書」を詠み、以後、日記(「台記」)に、その年に学んだ書目を記し、

崇徳天皇譲位1141＝21歳：「春秋左氏伝」を読む。

為義頼長臣従1143＝23歳：読了が既に一千三百巻に達したことを記すなど、くことに儒教の経書の講究に励んで、“日本第一の大学生、
和漢の才に富む”と評されるまでになった。一面、く朝儀・公事にも精励し、
・・・・・・・・1144＝24歳：藤原通憲(信西)に「易」を用いた占法を聴いて以降、信西を師と仰ぐ。
・・・・・・・・1145＝25歳：自邸の敷地の一角に書庫(文倉)を完成、父から伝領されたものも収めて行く。

・・・・・・・・1147＝27歳：*左大臣源有仁の死去をうけて、一上(太政官の首席)となるや、果断な実行力をもって、朝政の刷新と朝儀
の復興に努めた。父忠実が忠通の男子がまだ幼弱なのをみて、頼長に期待をかけ、

頼長氏長者・1150＝30歳：宋の商人から書物の献上を受ける。身边で版木による印刷が行われる。く摂政を左大臣の頼長に譲るよう忠
通に勧告するも拒絶されたため、忠通を義絶し、頼長を氏長者にした。

頼長内覧・1151＝31歳：くさらに内覧の宣旨をこうむり、内覧・左大臣であった道長を範として摂関家の権威の回復を目ざしたが、

為朝鎮西乱行1154＝34歳：身边で「葉師経」一千巻の印刷が行われる。

頼長内覧停止1155＝35歳：*近衛天皇の死去を機として、鳥羽法皇の信任を失い、さらに後白河天皇の践祚により、ほとんど同年齢で
皇子の践祚の望みを断たれた崇徳上皇と手を結び、

保元の乱・1156＝36歳：*法皇の死去後間もなく兵を挙げたが、敗れて南都に逃れ、戦場でうけた重傷のため命を落とした。
その日記「台記」は、生彩に富んだ公家日記として名高い。